

那須地域のハイキングシーズンは5月上旬に始まるが、山頂では5月下旬まで雪が残ることがよくある。荒涼とした冬景色が終わると、ブナや樺の木の森が景色を埋め尽くし、活気づく。アナグマ、タヌキ、ツキノワグマ、および他の多くの冬眠動物が顔を出し、餌を探し始める。また、サンコウチョウ、オオルリ、クロツグミなど、東南アジアから渡来する鳥が4月上旬から5月にかけてやってくる。

東アジア原産の品種であるスミレは、低地で最初に開花し、同じスミレ科の別の花が続く。4月になると桜が咲き始め、アジサイ、ツツジがそれに続く。高原の西部では、雪が溶けるとすぐに、沼ッ原湿原にザゼンソウとショウジョウバカマが咲く。実際、ザゼンソウは、紫の穂状花序に発熱能力があり、雪自体を溶かすことができる。この穂状花序は、特殊な葉が花房を隠すように包み込んでおり、和名である「座禅草」が由来となっている。外側の苞は洞窟の壁のようで、内側の花茎は9年間洞窟の中で瞑想したと言われる禅僧の達磨を連想させる。

山の斜面の岩肌には、4月および5月になると固有種のヒメイワカガミが咲く。日本語で「姫岩鏡」を意味するその名前は、細かい切り込みが入った可憐な花と、まるで鏡のような光沢を持つ葉、そして岩場に生息していることに由来している。5月中旬から下旬にかけて、八幡ツツジ群落には、23ヘクタールにわたって数種類のツツジが約20万本咲き誇る。

クロサンショウウオとトウホクサンショウウオは、4月下旬から5月下旬の間に現れ、小川や沼ッ原湿原のような湿地で卵を産む。ヤマアカガエルとアズマヒキガエルは、5月中旬に産卵する。モリアオガエルは、卵をスポンジ状の泡に包み、水面に垂れ下がる木の枝に吊るす。卵が孵化すると、オタマジャクシは下の水に落ちる。